

事業実施報告書

法人名	NPO法人エコ、エコ
活動名	自然理解の輪を広げる活動(応援:株式会社富士薬品)
助成事業の種類	SDGs推進活動助成 地球分野
事業の目的	
<p>人は自然の一部であり、自然なくしては生きていけません。自然という言葉は国立公園など大きな自然としか考えている人々が多いのですが、身近な自然が大切です。さいたま市では、多くの緑が住宅や運送会社の施設の開発で消えています。エコ、エコでは、身近な自然を守ることが、大切だと思ってもらえる活動を目的としています。ドイツでは自然保護活動理解のための様々な教育資材が作られています。個人のアイデアと助成金の力によって、教育資材を販売することに意義があるという目的で作られているため、数々の素晴らしい教材が開発されています。一方、日本では、助成金を出してくれる組織も少なく、売り上げ重視になってしまうので、多様なものが少ないのが現状です。小さい自然保護活動でもグッズを開発ができたり、専門家による継続的な観察会を通して、一人でも多くの自然を守る理解者を増やすことを目的とします。</p>	
事業で取り組んだ地域や社会の課題	
<p>クモと昆虫の観察会を行った場所は、エコ、エコの保全活動場所でした。景観にも配慮して、ヨシやススキで籠を作っています。また、クーグルマップにも掲載されるようになりましたが、まだ一般の認知度は低い場所です。観察会を実施することで、道の整備などの課題も見えてきました。環境講演会では、ドイツの教材やグッズも紹介していただき、とても刺激になりました。日本には、環境を楽しく学ぶという視点が欠けていることを再認識しました。ぬいぐるみで赤血球、DNAの二重らせんなど日本では発想できないものもたくさんあり、この刺激を活かしたいと思える講演会でした。講演会で話された弱肉強食、利己的遺伝子など強いものが残るということではなく、自然界では、大きな木は小さな木に菌類を通して栄養を与え、助け合っているという「超進化論」をもう少し調べ、伝えられるようにしたいです。</p>	
取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	
<p>クモの観察会は2024年7月21日、手入れしている畑に向かって観察しました。参加者は大人9人、子ども9人、スタッフ7人とでした。クサグモ、アリグモ、ギンメッキゴミグモ、ニホンヒメグモ、ジョロウグモの幼体、ネコハエトリ、カグヤヒメグモ、ヤバネウラシマグモ、シャコグモ、チリイソウロウグモなど夏の観察会ならではのクモに会うことができました。バツタ選手権は2024年9月15日、見沼自然公園で実施しました。参加者は大人5人子ども9人スタッフ5人でした。クルマバツタモドキは46.5mと最高記録をだしました。途中、野遊びも行い、長いクズのつるで、縄跳びもしました。</p> <p>昆虫の観察会は、2024年10月24日、手入れしている湿地で観察しました。参加者は大人18人子ども17人学生ボランティア1人スタッフ3人でした。フクラスズメの幼虫を触ったり、羽を広げている成虫のキタテハと幼虫、オオカマキリ、ホシササキリ、ウラナミシジミ、ニホンカナヘビなど観察しました。</p> <p>環境講演会は2025年2月11日に実施、大人11人子ども5人、スタッフ5人で、実際にカードゲームをしました。有意義な内容で大満足の講演会でした。</p>	
事業実施により達成した成果の具体的な内容	
<p>専門家とともに観察したことにより、気づきが多くあり今後の自然保護区の保全活動に活かしました。例えばオオアイトトンボの産卵は水の中ではなく、池の上に張り出した木の枝に産卵管を突き立てて産卵することを教えていただき、月2回の定例保全活動時に枝の剪定にも注意しました。</p> <p>バイオミクリーカード完成講演会を実施し、皆で遊び、楽しかった、参考になった、考えさせられたなど多くの感想をもらいました。</p> <p>地域の環境活動に使いたいという申し出もありました。</p>	

費用面での工夫
バイオミクリーカードは予定より枚数が増え、また、説明用のカードの必要も出てきてかなりの出費になりました。また、これらを入れる入れ物も、オーダーだと金額が高くなるので、現在、手渡すための入れ物を考え中です。将来は寄付してくれた方に差し上げる形式にしたいと考えています。
地域社会への還元
小学校などでバイオミクリーカードを使って支援していきたいです。観察会も定期的を実施します、道ゆく人にも心地よい景観作りに努めます。ドイツのように自然理解のゲームなどをささやかに作り活用します。
今後どのように事業を継続し発展させるか
後継者不足なので、現役でも参加できる活動日の日程にしていきたいです。現在、環境省の「見沼田圃生物多様性推進事業」(2024年～2026年)に採択されさいたま市と東京パワーテクノロジーとエコ、エコの3団体で事業を進めています。2年かかりで池を掘り、今までと風景が変わり、訪れる生きものにも変化が見えます。この場所で、観察エリアを充実させ一般の方への観察会を実施できるような方向を目指します。将来につなげるために小学校への支援を継続していきます。

事業収支計算書

法人名 NPO法人エコ.エコ

1 収入の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
助成金	490,000	490,000	0	
自己資金	54,812	139,612	84,800	
活動実施による収入等	90,000	27,000	△ 63,000	
その他	0	0	0	
収入の部 合計	634,812	656,612	21,800	

2 支出の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
会場費	0	0	0	
通信運搬費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
消耗品費	0	0	0	
備品費	0	0	0	
委託費	404,812	426,612	21,800	
謝金	170,000	170,000	0	
人件費	60,000	60,000	0	
その他	0	0	0	
支出の部 合計	634,812	656,612	21,800	